

不登校対応チェックリスト

- 校内での取組にご活用ください。

<未然防止>

★温かな学級づくり（集団づくり）

一人一人の居場所がある温かな学級をつくる。

- 子供のよいところを積極的にほめていますか。
- 一人一人の子供に活躍の場を設定していますか。
- 自己有用感や自己存在感を育む活動を意図的に取り入れていますか。

★子供同士や先生と子供の絆づくり

一人一人の子供の心をつなぎ合う取組や先生と子供の信頼関係づくりをする。

- 子供同士でよいところを認め合う機会をつくっていますか。
- 仲間意識を育てる活動を積極的に取り入れていますか。
- 全員の子供に声をかけていますか。

★わかる授業づくり

学ぶ意欲を育み、どの子供もわかる授業づくりをする。

- 授業のねらいや課題を明確にし、学習形態や指導体制を工夫していますか。
- どの子供にも「わかった」「できた」という成功体験を味わわせていますか。
- 理解の不十分な子供を見つけることができますか。

★小・中学校の連携

小学校と中学校が十分に情報交換を行うとともに、小中の交流を図る。

- 小学校と中学校が互いに十分な情報交換を行っていますか。
- 体験入学等、小・中学校間の子ども達の交流はできていますか。
- 教職員による小・中学校間の交流や連携はできていますか。

★家庭との連携

家庭との連携を密にし、学校と家庭が一体となって不登校の未然防止に努める。

- 子供の小さながんばりを家庭に伝えていますか。
- 保護者と積極的にコミュニケーションをとっていますか。
- 家庭と連携しながら基本的な生活習慣の定着をどの子供にも図っていますか。

<初期対応>

★早期発見

子供と触れ合いながら、子供の変化を敏感につかむ。

- 子供といっしょに遊んだり、話したりする触れ合いの時間をつくっていますか。
- 子供たちを複数の目で見たり教室以外での様子の情報を集めたりしていますか。
- 不登校の予兆チェックリストを活用するなど、子供のサインを見逃さない努力をしていますか。

★教育相談の充実

子供一人一人に寄り添うとともに、子供が相談しやすい教育相談体制をつくる。

- 子供と信頼関係ができており、子どもは悩みなどを相談してきますか。
- 子供は、養護教諭やスクールカウンセラーにすぐに相談できるようになっていますか。
- 子供や保護者に教育相談の窓口や電話番号を知らせていますか。

★情報の共有

担任が抱え込むことなく、他の関係職員や保護者と情報を共有する。

- 養護教諭やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と積極的に連携していますか。
- 気がかりな点は、すぐに管理職や学年主任、教育相談担当等に報告していますか。
- 日常生活の変化など気になることをすぐ保護者と話し合っていますか。

★早期対応

欠席状況を的確に把握し、早期に対応するとともにチームを組んで組織的に対応する。 (※個票や指導の記録の活用)

- 欠席を単なる欠席と捉えず、「何かあるのでは？」と意識し対応していますか。
- 欠席1日目の電話対応、欠席2～3日目の家庭訪問を心がけていますか。
- 対応が必要な場合、すぐに支援チームを編成できる体制ができていますか。

★小1プロブレムや中1ギャップへの対応

小1プロブレムや中1ギャップを正しく理解し、全職員で計画的に対応する。

- 小1プロブレムや中1ギャップを理解していますか。
- 小学校では幼稚園や保育所、中学校では小学校から十分な情報を得ていますか。
- 小1プロブレムや中1ギャップへの対応を十分に行っていますか。

<自立支援>

★指導体制の充実

校長、教頭を中心として全教職員で組織的に不登校対策の取組を行う。

- 不登校対策のコーディネーター役を担う不登校担当の教員が位置付けられていますか。
- 教職員相互の報告、連絡、相談はできていますか。
- いつでも、チームで相談や対応ができる体制ができていますか。

★環境の整備

保健室登校や別室登校などの不登校対策のための環境整備を行う。

- 不登校傾向や再登校を目指す児童生徒のために保健室の環境を整え、養護教諭の役割を全職員で共通理解していますか。
- 別室登校を希望する児童生徒のために別室で学習できる環境を整え、教室復帰の準備ができるようにしていますか。
- 不登校児童生徒や保護者に適応指導教室やフリースクール等を積極的に紹介していますか。

★不登校児童生徒や保護者とのかかわり

不登校児童生徒や保護者とのかかわりを大切にし、再登校へのきっかけをつくる。

- 不登校児童生徒に学校や学級の様子を連絡し、かかわりをもち続けようとしていますか。
- 家庭訪問や電話、迎えによる再登校への促しを積極的に行っていますか。
(促しを控えた方がよい場合を除く)
- 保護者との信頼関係を築き保護者と一体となって再登校に向けた取組を行っていますか。

★関係機関との連携

関係機関（児童相談所や総合教育センター、適応指導教室等）と連携を図り、子供の再登校に向けた支援を行う。

- 関係機関（児童相談所や総合教育センター、適応指導教室等）を理解していますか。
- 関係機関と積極的に連絡を取ったり、相談したりしていますか。
- 関係機関の役割等を保護者に知らせていますか。

★教職員の研修の充実

不登校について理解し、未然防止と学校復帰への指導力を身に付ける。

- 「温かい学級づくり」や「分かる授業づくり」の研修はできていますか。
- 不登校の早期発見・早期対応ができる力は身に付いていますか。
- 不登校に関する研修はできていますか。

※「魅力ある学校づくり5つの視点」（宮城県教育委員会）より

山元の子どもたちのよりよい成長のために、このパンフレットを参考にして各校での実践に役立ててください。

今後、生徒指導担当者会では、このパンフレットを参考にした実践の結果の成果と課題について振り返りをし、よりよい取組・成果を町内の先生方にフィードバックします。

何か、質問・意見等があれば事務局（山一小）までお問い合わせください。

（令和2年3月）

山元町教育委員会

山元町小・中学校生徒指導担当者会

山元町学校教育充実事業「みのりプロジェクト」

<徳育部会>

みんなで見守り
みんなで考え
みんなで取り組む生徒指導



朝の
ダンス!!

いきたくなる学校を目指して

いごこちのよい学級を目指して

いじめ“0”を目指して